

第195回 林政審議会議事録

1 開催日

令和2年9月11日（金）

2 方法

書面による開催

3 委員（五十音順、敬称略）

網野禎昭、小野なぎさ、河野康子、古口達也、斎藤幸恵、進藤富三雄、立花敏、玉置敏子、塚本愛子、土屋俊幸、長濱和代、中原丈夫、野田四郎、日當和孝、深町加津枝、福島敦子、松浦純生、丸川裕之、村松二郎、横山隆一

4 議題

令和元年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況について

5 審議結果

農林水産大臣より、令和元年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況を公表するに当たり、意見を求める旨の諮問があった。

令和元年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況について、委員全員の同意を得た。

この際、各委員からは、別紙1、2のように意見があった。

これらの意見の取扱いについては林政審議会会長一任とした。

林政審議会会長より、令和元年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況について、公表することが適当である旨の答申があった。

委員名	ご意見
小野 なぎさ	<p>国有林野の取り組みが具体的な事例で記しており、とてもわかりやすく読ませていただきました。ありがとうございます。</p> <p>豪雨や台風の災害が年々増す中で、国民の山林の災害状況や治山に関する関心は高まっていると感じます。</p> <p>①治山の観点から、国有林野の取り組みを参考に、今後民有林等へも活かしていけるよう、P17-22のような治山の事例の中で、現在行っている事業に加え、これまで国有林で行ってきた治山事業の中で、特に豪雨・台風災害に効果のみられる対策、優良な事例を合わせて紹介してはいかがでしょうか。</p> <p>P20の事例3の「二次災害の発生のおそれがある箇所が確認されたことから」をもう少し具体的にどのような状況に対して、どのような判断をしたのか、などの情報が参考になるように思います。</p> <p>②P79 公衆の保健のための活用の推進 「日本美しの森」の情報発信について、具体的な方法の紹介があると良いと思います。</p> <p>③育成複層林化や針広混交林化の取組については、国有林の事例を参考に国有林以外にも適応できるよう施業方法についてわかりやすい情報提供を今後期待しています。</p>
河野 康子	<p>管理経営基本計画期間の1年目である令和元年度は、「公益重視の管理経営の一層の推進」をはじめとして、目的として掲げた4つの領域において、着実に活動を進めたことが確認できました。</p> <p>課題となっている国民への周知と理解促進を図るために、全国各地で行われた事例等を写真や図表を多用しての記載となっており、具体的でわかりやすい。その上で、基本計画そのものへの興味関心を高めていくために、今後一層の工夫が求められるところです。</p>
斎藤 幸恵	<p>必要な事柄がコンパクトに網羅され、手に取りやすく密度が高く仕上げられていると存じました。今年度から新しく加えられた「トピックス」は、目玉となる事柄についてわかりやすく目を引きやすい工夫で、大変効果的と存じます。</p> <p>ただ気になりましたのは、本年度は「木の文化」のタイトルについて頁が割かれていないことです。歴史的木造建築物や伝統工芸のための、資材の提供と、技術の継承とを支えていく森林を、絶やさず守り育てることを明示化することは必要ではないかと考えます。</p>
立花 敏	<p>まず、各局が公益的機能の一層の発揮や、林業の低コスト化、地元との連携の推進などに関する様々な取り組みを行い、それをしっかりと纏めて公表されることを評価したい。森林の多面的機能を高度に発揮させていくために、また地元や地域への貢献を果たすために、これらの取り組みを拡充することが必要であるし、その方向での取り組みを期待したい。</p> <p>また、今年度から始まることになっている樹木採取権に関しては、COVID-19の拡大に伴って木材需要の低迷、木材価格の下落が生じ、来年にもそれが続くことと危惧される中にあり、木材市場および地元や地域への影響を避けるため、これらの動向に注視しながら一定期間の見合わせが望まれると考える。</p>
玉置 敏子	<ul style="list-style-type: none"> ・取組状況事例・管理経営の事例をはじめ、それぞれの地域状況の違う中、広く、多く示されているので、解りやすく、納得が出来る。 ・新型コロナ感染症をふまえての「国有林材供給調整検討委員会」の設置は興味深く、予想外のコロナの影響が出ている今、対策の要になると思う。 ・路網の整備、林道の整備は、この気候の変化による大災害が起こりうる環境にあって、林産物供給のためだけでなく、災害に対応する大きな要素になると思う。 ・画期的な「森林経営管理制度」の運用は、広範囲な効果が期待出来ると思う。 ・公共物に限らず、民間の大型木造建築物も急激に増えてきており、事例をもってその取り組み方を示すことにより、さらなる普及につながると思う。そのためにも引き続き、耐震・耐火を含む“木”そのものの利点など、理解してもらうための活動も必要だと思う。
塚本 愛子	<p>今年度からスタートした樹木採取権制度や代表的な事例を、冒頭で「トピックス」として紹介するとともに写真や図表などを多用するなど随所に創意工夫が見られ、林業関係者はもとよりそれ以外の多くの方々に、国有林の取り組みを知っていただきたいとの強い意気込みが伝わってきました。</p> <p>今後は、幅広い層の方々の目に触れるように、広報活動等に一層力を入れられることを期待します。</p>
土屋 俊幸	<p>森林・林業白書と同様に、トピックスを冒頭に示すようになったこと、事例が多く取り上げられ、現場での活動状況を国民に知らせる努力をされていることを特に評価したい。</p>

長濱 和代	<p>国有林について管理経営の基本計画の実施状況を、図表や写真を交えながらわかりやすく、かつデータに基づき丁寧に記載されており、読み応えのある報告内容となっていると思いました。国有林の利用促進のためには、広報活動のさらなる活性化により、国民の国有林への関心興味を高めることを期待いたします。</p>
中原 丈夫	<p>写真等、グラフがうまく盛り込まれていて理解しやすい。 しかし、これ以上文章を削ると、実施状況のまとめとしての説得力が低下すると思われるので、注意すべきではないか。</p>
野田 四郎	<p>1. 国有林野の基本計画の実施状況に関して、多岐にわたる内容を多くの事例の紹介を含めわかりやすい説明がなされていて良いと思う。意見としては林業白書と同様にSDGsとの関わりを積極的に表現することで、国有林及び林野事業が大きな社会貢献をする重要性を示すことができると思う。また国有林野の事業は国内林業の先導的モデルであり、SDGsへの貢献は国内林業の価値向上をはかる上で重要と思う。 2. トピックス①の樹木採取権制度の創設に関して、これは国有林野事業の大きな変革に繋がる制度でもあり、その後の運用状況等の紹介もできれば良いと思う。</p>
福島 敦子	<p>項目ごとによくまとめられており、特に令和元年度の特徴ある取組みを最初に持ってこられたことは、ニュース性、新鮮味があってよかったと思います。 ただこのページに関して他のページとくらべ、かなり文字を詰め込んでいる印象を受け(特に概要)、もう少し、情報を整理したり、文字の大きさを考慮するなど、読みやすくする工夫をされると、なおよかったのではないかと感じます。</p>
松浦 純生	<p>今後、ますます国有林に対する期待と責任が大きくなるなかで、果たして現行の人員で多種・多様な業務がこなせるか心配。旧態的なアナログ業務を思い切って見直し、デジタル技術を用いた業務の効率化をすすめ、業務にゆとりを生みだすとともに、貴重な人的資源の潜在能力を最大化しつつ、創造性と革新性に満ちた国有林を目指して欲しい。</p>
丸川 裕之	<p>写真も豊富に掲載されており、章立てを含め解りやすいと思います。個別のページごとの修正意見は有りません。</p>
村松 二郎	<p>樹木採取権制度の実施にあたっては、特に新型コロナウイルス感染症の影響により木材需要量が減少しているので、実施時期等について慎重を期してほしい。</p>
横山 隆一	<p>令和元年度の国有林の基本計画の実施状況については、お送りいただいた案の文章で特に異論ありません。 が、次回作成時には、特に生物多様性の保全に関する、保護林、緑の回廊、モデルプロジェクト、溪畔林保全、その他の施業計画や施業作業における希少種への配慮事項や種の保存等の対応策に関する記述の中に、日本の地域毎(ないしは局毎)の重点対象生態系や生物種の明示をすべきではないかと思えます。 また、これらの量的な目標(箇所数、ないしは面積)の明示ができるよう、ぜひとも工夫いただきたい。現在の「〇〇をしています」式の書き方では、例えば日本全域で求められているようなものであるものの、ただ1カ所で実行している状態のみでもこのように書いてしまい、実施していることの量的な評価がなく、林野庁職員への自己評価材料の提供と国民への正確な事業報告・自己評価の提示の観点から、誠実さに欠けるように思われます。実施していることの質と共に、量的な評価を加えることを要望します。</p>

番号	委員名	章	頁	段	行	該当箇所(修正前)	(修正後)	備考(理由等)
1	斎藤 幸恵	トピックス	7				各樹種について使用量(立米、本など)や年齢などを可能な範囲で加筆する。	具体的な数値があるほうが、説得力が増す。
2	土屋 俊幸	1	13		表-1	国有林率に(参考)の表示は要らないのでは。		国有林野の森林資源の現況を示す重要な指標では。
3	斎藤 幸恵	1	16				造成試験の規模を示す数値(haなど)を加筆する。	具体的な数値があるほうが、説得力が増す。
4	斎藤 幸恵	1	24		表-6		可能ならば5年、すくなくとも3年分を載せる。	複数年での傾向が見て取れるほうが、誤解なく理解されやすい。
5	斎藤 幸恵	1	26	2	5	積極的な木材利用	樹種、使用量などを可能な範囲で加筆する。	具体的な数値があるほうが、説得力が増す。
6	斎藤 幸恵	1	50				「ウ 文化を支える森づくり」の項を挿入する。	コロナ禍以前、首里城の消失に衝撃を受け、再建の可能性について多くの議論がなされていた。大嘗祭を支える木材のほか、首里城古事の森など、いま高い関心を惹くトピックスと思われる。歴史的木造建造物や伝統工芸のための、資材や技術の継承を支える森林、という側面が明示化されるべきである。資材や技術が失われ復旧できない諸外国から「価値」として注目されているばかりでなく、木材利用を意義付ける「価値」ともいえる。
7	斎藤 幸恵	3	70		表-16		可能ならば5年、すくなくとも3年分を載せる。	複数年での傾向が見て取れるほうが、誤解なく理解されやすい。
8	土屋 俊幸	3	70		表-16	令和元年の数字が国産材供給量が間に合わず、表のタイトルに合っていない。	平成29年度と30年度の比較か、3年間の比較にして欲しい。	
9	長濱 和代	3	75		1	一般参観で公開された大嘗宮(東京都千代田区)	皇位継承の重要祭祀(さいし)「大嘗祭(だいじょうさい)」の会場に使われた大嘗宮(だいじょうきゆう)(皇居・東御苑) 【さらに加筆が可能であれば、例として】 大嘗宮は天皇陛下が儀式を行われた悠紀殿(ゆきでん)、主基殿(すきでん)を中心に大小三十余りの建物で構成。平安時代から続く悠紀、主基両殿と廻立(かいりゅう)殿は、皮付き丸太を使う「黒木造り」という古代からの伝統工法を用いた。	写真と「一般参観で公開された大嘗宮」だけでは、情報が伝わりにくいと思われます。 漢字にはルビを振ってはどうでしょうか。
10	長濱 和代	4	79	1	3	国有林野事業では、優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林を「レクリエーションの森」として国民に提供しており、令和元年度は、延べ約1億3千万人の利用がありました。	国有林野事業では、優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林を「レクリエーションの森」として全国に620箇所を国民に提供しており、令和元年度は、延べ約1億3千万人の利用がありました。	「レクリエーションの森」が全国で合計いくつあるのか文面からは不明瞭です。「代表的なレクリエーションの森」が表-22にあり、これは、「日本美しの森 お薦め国有林」と同じなのか、わかりにくいです。「お薦め国有林」は詳細が記載されるとよいと思われます。国民の活用が期待できる項目なので、頁を増やすことができれば、幸いです。
11	土屋 俊幸	4	80			写真の鮮明度が他と比べて特に低いように思う。肝心の英語表記がまったく読めない。	鮮明度を上げる工夫、あるいは拡大することはできないか。	状況を示す写真と文字の拡大写真にして、事例はどちらか一つにするなど。
12	土屋 俊幸	全体				表の数字が報告年度と(参考)欄の先年度の数字のみなのはいかがか。	最低限、3時点の数字を出すことはできないか。なお、この点については、次年度以降にご検討ください。	近接の2時点では傾向がわからない。例えば、5年前と先年度と当年度のように。
13	長濱 和代	全体				図-3、5、6、8、13の横軸	単位として年または年度を追加	グラフからは横軸の記載の単位が読み取れません。